

付則 6 工事記録写真撮影基準

工事記録写真撮影基準

この基準は八戸圏域水道企業団が施工する配管工事における工事写真の撮影方法を定めたものである。

1 目的

工事記録写真撮影の目的は次の各号による。受注者は、これらの目的に適合するよう必要な写真を効果的に撮影しなければならない。

- (1) 工種別作業内容及び出来形を明確にするため。
- (2) 使用材料（調合を要するものを含む。）の形状寸法、数量及び試験、検査等の内容を明確にするため。
- (3) 交通安全対策等を含む工事中の安全管理及び工事公害対策の状況を明確にするため。
- (4) その他工事に関連する諸対策及び記録等の状況を明確にするため。

2 一般事項

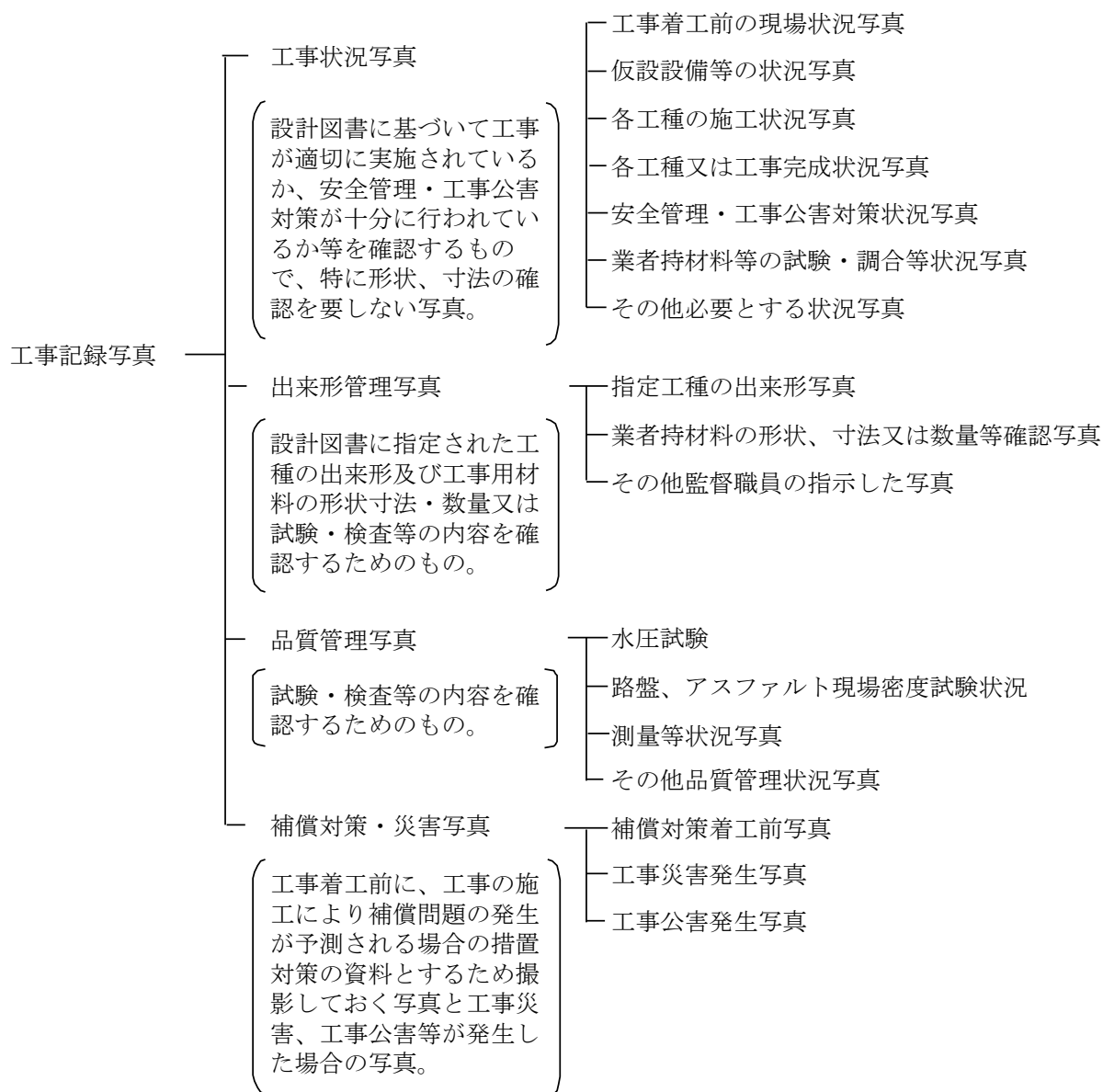
- (1) この基準に定めのない事項については、青森県土木工事施工管理基準（写真管理基準）に準ずる他、全日本建設技術協会発行の「土木工事写真の手引き」によるものとする。
- (2) 工事記録写真は、各種工事の施工にあたり、設計図書及び仕様書に基づき、各工程の確認と、工事完成後外部から明視できない部分、あるいは原形との比較検討などにより完成検査における重要な資料となるものであり、その目的を明確に表現するように撮影しなければならない。
- (3) 受注者は、写真管理担当者を定め、写真の撮影及び管理をしなければならない。
- (4) 写真管理担当者は、工事着手前に写真撮影の具体的内容について監督職員と協議しなければならない。
- (5) 写真は、カラーとし、大きさはL判程度とする。
- (6) 一枚の写真で不十分な場合は、同一地点から撮影した組み写真とする。
- (7) 設計変更の対象と考えられる事項が生じた場合は、監督職員に報告のうえ設計変更の資料となるよう撮影すること。
- (8) 工事写真は、紛失または撮影技術の不良等による不足のないよう注意するとともに、工事進行に従い随時不備がないよう確認し、監督職員から提出の指示があった場合は、直ちに応じられるよう整理しておくこと。
- (9) 撮影に用いる小黒板は、原則として図-1 のとおりとするが、工事契約後、監督職員の承諾を得たうえでデジタル写真の小黒板情報電子化を行うことができる。
- (10) 写真撮影の測点は、原則として状況写真にあつては150mごと、出来形管理写真にあつては50mごと、および変化点に設置するものとする。
- (11) 写真は原則として起点側から撮影するものとするが、止むを得ず終点側から撮影する場合は、測点の下に「終点側から写す」と記入すること。

○工事写真は次の事項を記入した小黑板（60cm×45cm）を写しこむこと。

図-1

工 事 名		
工 種		略 図
撮 影 月 日		
位 置		
設 計 寸 法		
実 測 寸 法		
指 令 番 号		
○○水道工業		

3 工事写真の種類



4 撮影計画

(1) 撮影計画書の提出

受注者は、工事着手に先立ち、「写真管理内容」を施工計画書に記載し監督職員に提出すること。

5 撮影方法

(1) 写真の分類

写真は、原則として状況写真、出来形管理写真、品質管理写真、補償対象災害写真とすること。

なお、撮影に当たっては、小黒板を写しこむこと。

イ 状況写真は、施工の位置及び状況が容易に確認できるよう後方に家屋等の背景に入れて撮影すること。

なお、1枚で状況が確認できない場合は、組写真にすること。

ロ 出来形管理写真は、所定の形状・寸法が判定できるように必ず寸法を示す器具（箱尺、リボンテープ、補助ひも、水糸、その他監督職員が承認したもの）を入れて撮影すること。

ハ 品質管理写真は、検査、試験、測定等を行っている全景及び規格・基準等と照合又は対比して確認できるよう近距離から撮影すること。

ニ 補償対象災害写真は、工事施工による補償問題が発生する恐れのあるもの、災害等、撮影場所と状況が分かるようにすること。

(2) 撮影箇所

撮影は、「別表」に示す箇所のほか、監督職員が指定する箇所又は記録に残す必要がある箇所とする。

(3) 撮影時期

撮影者は、写真撮影の目的を十分に理解し、常に、工事の進捗状況、施工内容を把握して、施工前及び施工後等、適当な時期に撮影すること。

(4) その他

6 撮影の留意事項

撮影するに際しては、次の各号に留意しなければならない。

(1) 撮影箇所の周囲は、整理しておくこと。

(2) 撮影方法は、原則として起点から終点に向かって同一場所から一定して撮影すること。

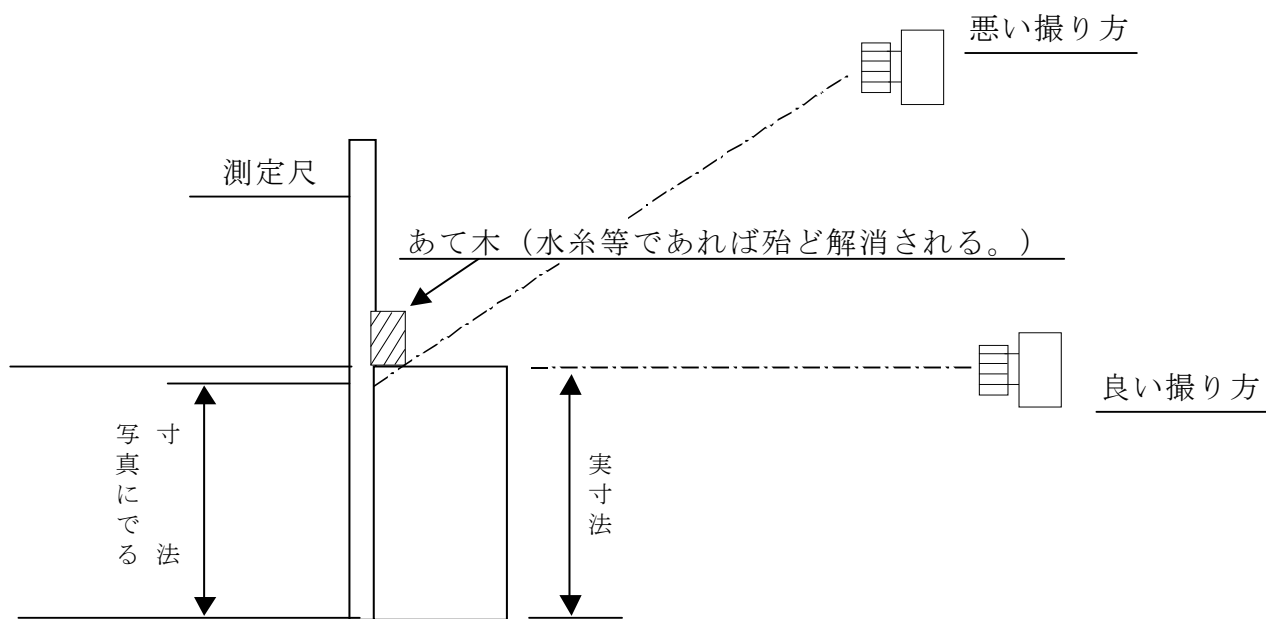
(3) 出来形管理写真は、写された寸法が正確に読みとれるように、撮影者は姿勢を低くして撮影しなければならない。（撮影角度による誤差をなくするために、測定尺の読み目に、糸を張る等の工夫をすれば、地形等の関係上どうしても、鋭角でないと撮れない場合でも、寸法が判然と読みとることができる。

(4) 夜間工事は、夜間の状況が判断できる写真であること。

(5) 室内等暗部で行う工事は、その状況が判断できる写真であること。

(6) 必要に応じて遠方とアップを撮影すること。

(7) 完成写真の撮影は、残材等の後片付けがすべて完了した状態で撮影すること。



管布設工事における撮影箇所

	工 種	撮影箇所及び内容	撮影時期	撮影頻度	摘 要
一 般 管 布 設	1. 補償対策着工前 写真	(1) 工事施工中、工事完成 後紛争の原因になると予 測されるもの (例) 舗装の状況、ブロッ ク塀、積ブロック等各施 設の亀裂、傾き等	着手前	1回／各箇所	撮影目的を十分充たす。 相手側の立会いの上撮影 するようにする。
	2. 着手前	(1) 工事区間内各測点の追 い写真 (2) 変化点 (3) 弁栓類の設置箇所 (4) 道路復旧の異なる箇所	着手前 " " "	1回／50m 1回／変化点 1回／箇所 "	着手前、完成後の現場の 状況を同一箇所から同一 方向に写す。 一枚の写真で次測点が写 らない場合は追加測点を 設け前後測点の関連が判 別できるよう撮影する。 図—1
	3. 完成後	着手前と同じ	完成後	着手前と同じ	着手前と同じ 図—1
管 布 設	1. 舗装切断工	(1) 舗装切断作業状況 (状況)	作業時	1回／150m	舗装切断位置にスタッフ をあて幅の確認ができる ようにし、背景に切断状 況が入るように写す。 図—2
	2. 舗装版とりこわ し	(1) 舗装版とりこわし状況 (状況)	作業時	1回／150m	
	3. 掘削	(1) 機械掘削 (2) 人力掘削 (状況)	作業時 "	1回／150m "	影響部のある場合のH ₂ は両 肩2箇所測定する。
		(3) 掘削断面各部寸法 (出来形) W ₁ W ₂ W ₃ H ₁ H ₂ (4) 再掘削(出来形)L ₁ L ₂	掘削床均 し完了時	1回／50m	図—3、4
	4. 床均し	(1) 人力床均し状況 (状況)	作業時	1回／150m	L ₁ 再掘削延長 L ₂ 配管露出延長 掘削底面床均し箇所図—5
5. 残土処理	(1) 積込状況 (2) 捨土状況 (3) 整地状況 (4) 完了	作業時 " " 整地完了 時	適宜 " " "	捨土場所は全景が写るよ うに工夫する。	

工 種	撮影箇所及び内容	撮影時期	撮影頻度	摘 要
6. 管布設工 (鑄鉄管)	(5) 産業廃棄物処理状況 (状況)	作業時	適宜	処理施設名が入るよう
	(1) 管吊り降ろし状況	作業時	1回/150m	
	(2) 管据付状況	〃	〃	
	(3) 管接合状況	〃	〃	
	(4) 防食工状況	〃	〃	
	(5) 継手部清掃状況	〃	適宜	
	(6) 滑剤塗布状況	〃	〃	
	(7) 管切断状況	〃	〃	
	(8) 切断面補修状況	〃	〃	
	(9) ライナ挿入状況	〃	全箇所	芯出ゴムの挿入状況も写るように撮影する。
	(10) 管端防食ゴム取付状況	〃	〃	
	(11) 管切断寸法測定	管切断時	〃	
	(13) チェックシートによる継手接合状況 (品質)	〃	適宜	
	(14) 管の布設位置及び深さ W、H (出来形)	管布設時	1回/50m	図—6
	(15) 管布設位置及び深さが許容範囲を超える場合 W、H (出来形)	〃	1回/箇所	位置は15cm以上土被りは-5cm・+10cmをそれぞれ超えるもの 図—7
	(16) 既設管接続箇所の位置及び深さ W、H (出来形)	〃	〃	
	(17) 構造物や他の埋設物との離れ	〃	全箇所	
(配水補助管)	(1) 管布設状況	作業時	1回/150m	
	(2) 管接合状況	〃	〃	
	(3) 管の布設位置及び深さ W、H (出来形)	管布設時	1回/50m	
7. 埋戻工	(1) 各層毎の敷均し転圧状況 (状況)	作業時	1回/50m	スタッフをあて各層厚を測定し背景に作業状況が写るように撮影する。 1層厚最大20cm以下 図—8
	(2) 埋戻仕上り面の測定 H (出来形)	埋戻完了時	1回/50m	図—9
	(3) 土研式貫入試験状況 改良土 路盤用砂	測定時	1回/150m	(150m未満は1箇所) 〃

工 種	撮影箇所及び内容	撮影時期	撮影頻度	摘 要
8. 下層路盤工	(1) 各層毎の敷均し転圧状況 (状況)	作業時	1回/50m	スタッフをあて各層厚を測定し背景に作業状況が写るように撮影する。 1層厚最大20cm以下 図-10
	(2) 下層路盤仕上り面の測定 W_1 、 H_1 (出来形)	下層路盤工完了時	1回/50m	図-11
9. 標識シート	(1) 標識シート設置状況 (状況)	敷設後	1回/150m	スタッフをあてシートの深さを撮影する。 図-12
10. 上層路盤工	(1) 各層毎の敷均し転圧状況 (状況)	作業時	1回/50m	スタッフをあて各層厚を測定し背景に作業状況が写るように撮影する。 1層厚最大15cm 図-13
	(2) 上層路盤仕上り面の測定 W_2H_2 (出来形)	上層路盤完了時	1回/50m	路盤に影響部のある場合の H_2 は両肩2箇所測定する。 図-14
	(3) 現場密度試験及びふるい分け試験状況 (品質)	作業時	1回/150m	復旧毎小規模 (50㎡未満) は不要
11. 仮復旧工	(1) アスファルト敷均し転圧状況 (状況)	作業時	1回/150m	
	(2) 厚さ測定状況	作業時及び測定時	1回/150m	10. (2)による
12. 路盤掘削積込工	(1) 機械(人力)掘削状況	作業時	1回/150m	
13. 不陸整正工	(1) 不陸直し作業状況	〃	〃	
	(2) 転圧状況 (状況)	〃	〃	
	(3) 不陸整正仕上り面の測定 W_2H_2 (出来形)	完了時	1回/50m	影響部のある場合の H_2 は両肩2箇所測定する。 図-15
14. 舗装工	(1) 各層毎乳剤散布状況	作業時	1回/150m	既設舗装切断面の塗布状況も同時に写す。 図-16

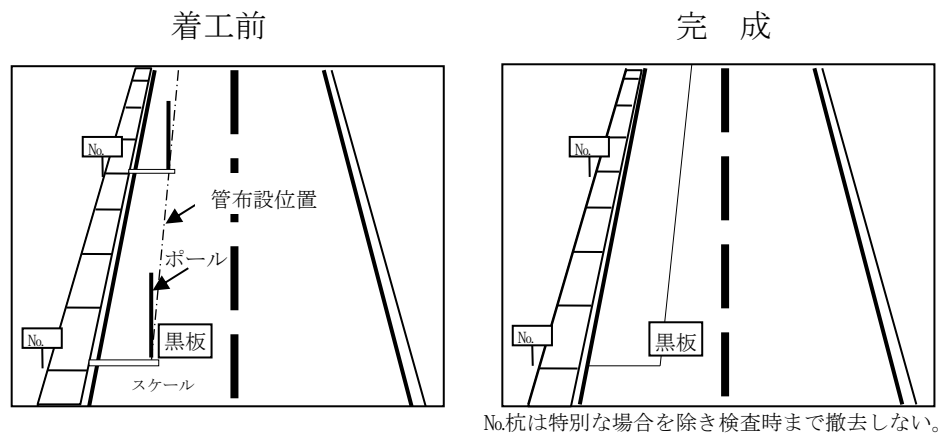
	工 種	撮影箇所及び内容	撮影時期	撮影頻度	摘 要
		(2)各層毎アスファルト敷均し転圧状況	作業時	1回/150m	スタッフをあて各層毎に厚さを測定し背景に作業状況が写るように撮影する。又影響部のある場合は両肩2箇所写す。 図-17
		(3)養生砂散布状況 (状況)	完了時	1回/150m	
		(4)各層毎の仕上り厚さ測定 W、H (出来形)	各層毎の完了時	1回/50m	既設舗装、側溝等がなく型枠を用いる場合ピンボール等で測定する。 影響部のある場合のHは2箇所測定する。 図-18
		(5)コア採取状況	作業時	1回/150m	150m未満は1箇所 小規模(50㎡未満)は不要
		(6)コア厚さ測定状況t	測定時	〃	図-19
		(7)各種合材温度	トラック到着時	〃	
			敷均し時	〃	
			転圧時	〃	
		(8)乳剤散布量の測定状況 (品質)	作業時	1回/150m	
	15. 外側線 アスカープ	(1)施工状況 (状況)	作業時	1回/150m	
弁 栓 類 設 置 工	1. 仕切弁設置工	(1)弁座ブロック設置状況	作業時及び完了時	1回/箇所	(1)～(4)の内(1)と(2)及び(3)と(4)は同時に撮影してもよい。 嵩上、下を容易にするためポリスリーブを施した状況で撮影する
		(2)仕切弁設置状況		〃	
		(3)筐台ブロック設置状況		〃	
		(4)筐据付状況 (状況)		〃	
	2. 空気弁、バタフライ弁設置工	(1)弁設置状況	作業時及び作業完了時	1回/箇所	
	3. 地上式消火栓設置工	(1)土工の状況は管布設と同じ	作業時	1回/箇所	
		(2)切込碎石基礎突き固め状況		〃	
		(3)弁座ブロック据付状況		〃	(3)と(4)は同時に撮影してもよい
		(4)消火栓設置状況		〃	

工種	撮影箇所及び内容	撮影時期	撮影頻度	摘要	
4. 地下式消火栓	(5) 砕石工突き固め状況	作業時	1回/箇所	図—24 1.0×1.0 図—25 1.0×1.0×0.15 1.0×1.0×0.7	
	(6) 掘削面及び深さ測定	測定時	〃		
	(7) 掘削底面測定	〃	〃		
	(8) 切込砕石基礎厚さ測定	〃	〃		
	(9) 砕石厚さ測定 (出来形)	〃	〃		
	5. 弁室工 (コンクリート側塊)	(1) 消火栓設置状況	作業時	1回/箇所	生コン車が写るように工夫する 松丸太 末口 9cm×1.8m 図—20 間隔 1.3m 図—21 1.70×0.4×0.15 図—22 1.70×0.4×0.15 図—23 1.0×1.0×0.10
		(1) 木杭打状況	作業時	1回/箇所	
		(2) 切込砕石基礎突き固め状況	〃	〃	
		(3) コンクリート型枠設置状況	〃	〃	
		(4) コンクリート投入打設状況	〃	〃	
		(5) 砕石工突き固め状況	〃	〃	
(6) コンクリート側塊吊込据付状況		〃	〃		
(7) 調整リング、鉄蓋吊込据付状況 (状況)		〃	〃		
(8) 途中切断した場合の残杭の測定		測定時	〃		
(9) 木杭の間隔測定		〃	〃		
(10) 切込砕石基礎測定		〃	〃		
(11) コンクリート基礎測定 (出来形)	〃	〃			
(レジンボックス)	(1) 切込砕石基礎突き固め状況	作業時	1回/箇所		
	(2) 底板設置状況	〃	〃		
	(3) ボックス設置状況	〃	〃		
	(4) 鉄蓋設置状況	〃	〃		
	(5) 切込砕石基礎測定 (出来形)	測定時	〃		
管布設工	1. 水路等障害物による伏越し、切廻し等	(1) 管布設1~14と同じ (状況、出来形)	1~14と同じ	1回/箇所 図—26	
	2. コンクリート防護等	(1) 杭打、切込砕石基礎、型枠、コンクリート投入打設の状況は弁栓類5の(1)~(4)と同じ (状況)	作業時及び作業完了時	1回/箇所	
	(2) 各部測定 5の(8)~(11)と同じ (出来形)	測定時	1回/箇所		

	工 種	撮影箇所及び内容	撮影時期	撮影頻度	摘 要
仮 設 工	1. 水替工	(1) ポンプ設置、水替状況 (2) 排水状況 (状況)	作業時	適宜	工事完了後、水替した延長が分かるように工夫する
	2. 土留工	(1) 矢板幅、厚さ、長さ測定 (出来形) (2) 矢板建込、腹起こし、切梁の設置状況 (状況) (3) 矢板建込幅、深さ延長の測定 (出来形)	測定時 作業時又は設置完了時 測定時	接合部は適宜 全延長の場合 は1回/150m 伏越し等の場 合は全部	測定時は根入りを十分にしておく 各延長が分かるように工夫する 図—27, 28, 29
品 質 管 理	1. 水圧試験	(1) 試験の状況風景 (2) 水圧計の大写し(常圧、試験水圧) (3) 排水設備、洗管、ポリピック出しの状況	作業時 測定時 作業時	1回/箇所	
	2. 乳剤散布量試験	(1) 測定マット上に乳剤散布状況 (2) 現場重量測定状況	作業時 測定時	1回/150m	
	3. 舗装工	(1) コア密度試験状況	作業時	1回/150m	150m未満は1箇所 小規模(50㎡未満)は不要
	4. 測量	(1) 丁張等測量作業状況 (2) バルブオフセット、詳細図用等の平板測量状況	作業時 〃	適宜 〃	
仮 設 備	1. 材料の保管	(1) 現場事務所、材料置場等の状況 (2) 材料の保管状況 (3) 材料(砂、骨材含む)シートカバー等の状況	設置前 設置後 工事期間 中適当な 時期	1回/箇所 適宜	
材 料 検 査	1. 材料検査	(1) 材料検査	検査時	1回/搬入毎	監督職員の検査を受けて使用する材料全部

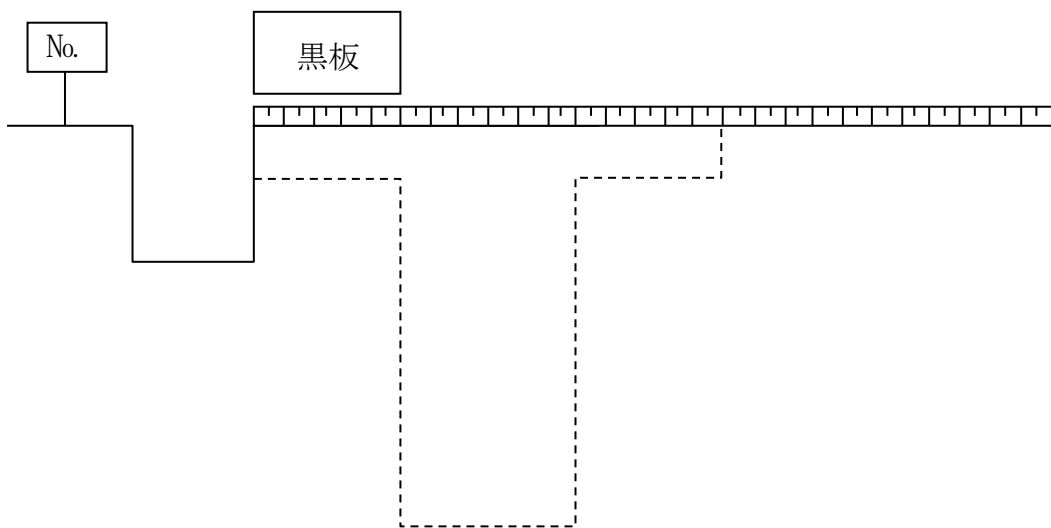
	工 種	撮影箇所及び内容	撮影時期	撮影頻度	摘 要
保安施設	1. 安全管理	(1) 各種標識類の設置状況	設置後	各種類ごとに1回	工事の各種標識 防護柵、セーフティコーン等の配列状況及び形状
		(2) 各種保安施設の設置状況	〃	〃	
		(3) 交通整理員等による交通整理状況	作業時	1回	
給水管切替工	1. 給水管切替工	(1) 土工 分岐箇所 給水管布設 (状況、出来形) (2) 分岐サドル取付 トルク確認 設置完了 (3) 水圧試験 全体 アップ (4) 分岐サドル 穿孔状況 コア挿入 (5) 既設管との接続 (6) 防食フィルム巻きつけ (7) 給水管推進工 (5) 分水栓閉止	管布設の1 ～5及び7 ～14と同じ	不要 1回/5箇所	道路復旧種別毎に1/5箇所 (状況、出来形) 道路復旧種別毎に1/5箇所 (状況、出来形) 道路復旧種別毎に1/5箇所 (状況、出来形)
			既定の水 圧になっ たとき	1回/5箇所	
				1回/5箇所	
			挿入前挿入後 完了時 完了時	全箇所 1回/5箇所	
				1回/5箇所	
			1回/5箇所	全箇所	
			1回/5箇所	全箇所	
閉止時	1回/5箇所				
その他	1. 試験掘	(1) 地下埋設物の位置、離れ、深さ等	露出したとき	1回/箇所	スタッフ、リボンテープ等あて各部の寸法を測定し、小黒板にも図示 写真は協議書等にて提出する
	2. 施工検査	(1) 各種施工段階における検査	検査時	適宜	監督員の検査状況が写るよう工夫する

図-1



弁栓類の設置箇所、伏越箇所等に測点を設け着手前、完成の状況を撮影する。

図-2



舗装切断箇所にスタッフ・リボンテープ等をあて、後方に作業状況が写るようにする。

図-3
掘削幅の出来形

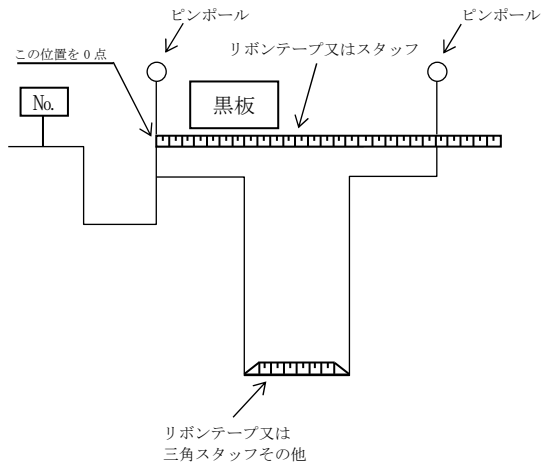


図-4
掘削深さの出来形

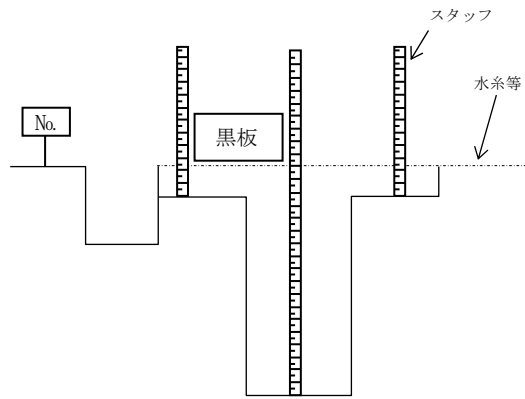


図-5
人力床均し施工箇所

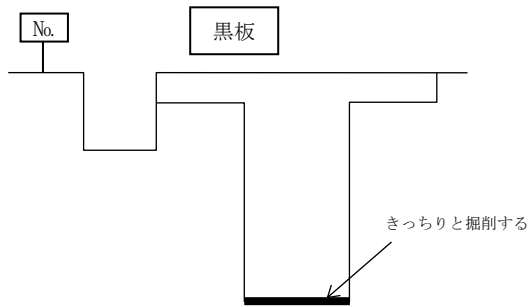
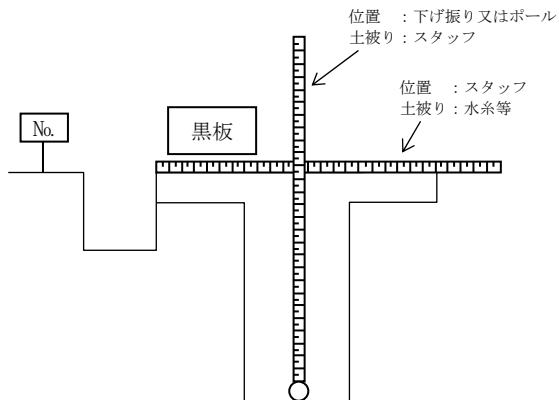


図-6
管の位置、土被りの出来形



管の位置、深さは別々に撮影することとし、位置を測定する場合はスタッフを設置しポール又は、下げ振りで位置を測定する。

又、深さの測定は水系等設置し縦にスタッフを置き測定する。

十字スタッフの場合は位置、深さを同時に撮影してもよい。

図-7

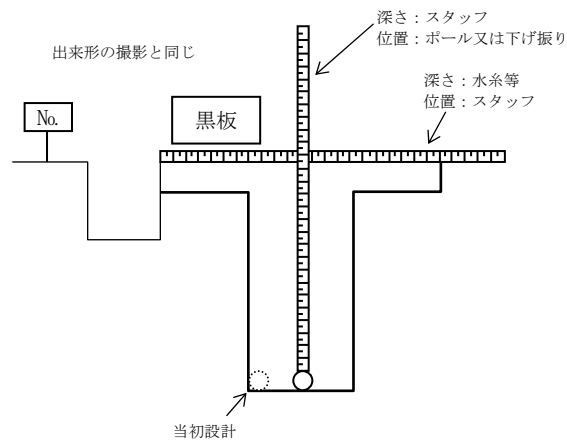


図-8 埋戻工状況

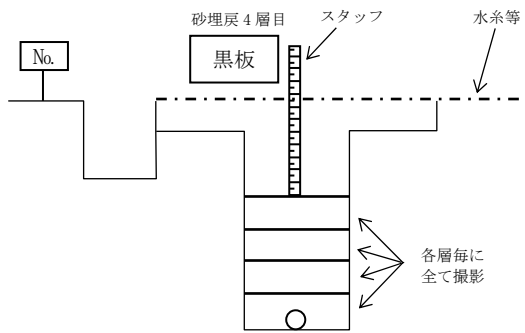
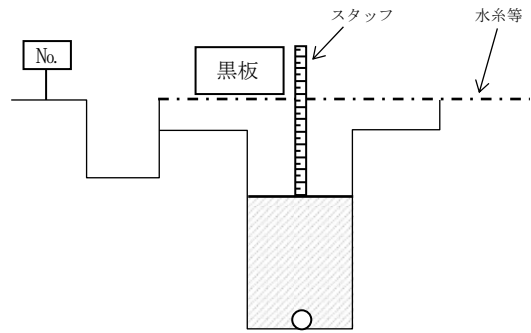


図-9 埋戻出来形



各層ともスタッフをあて後方に敷均し転圧状況が写るように撮影する。

図-10 下層路盤工状況

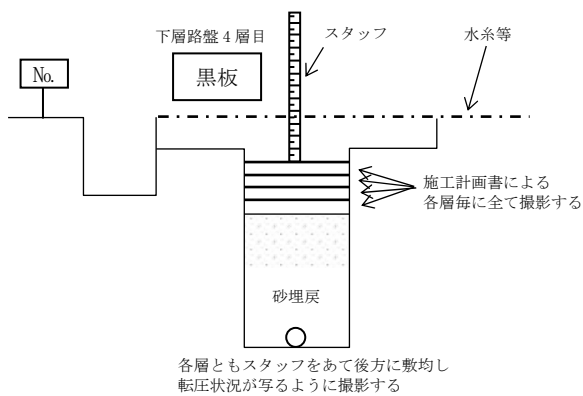


図-11 下層路盤工出来形

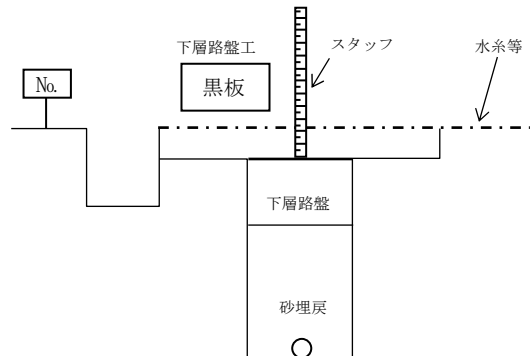


図-12 標識シート敷設状況

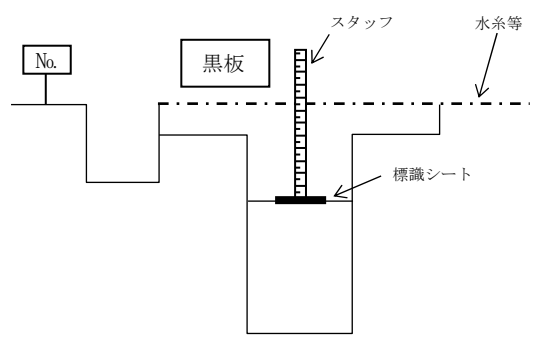


図-13 上層路盤工状況

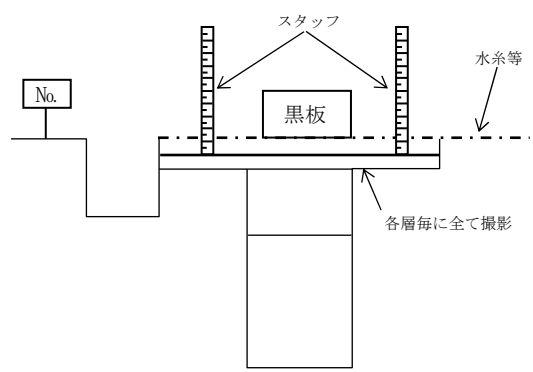
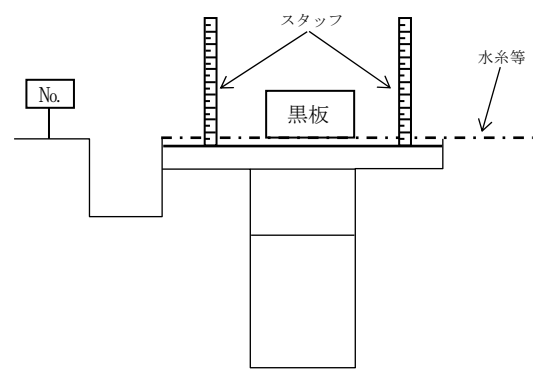
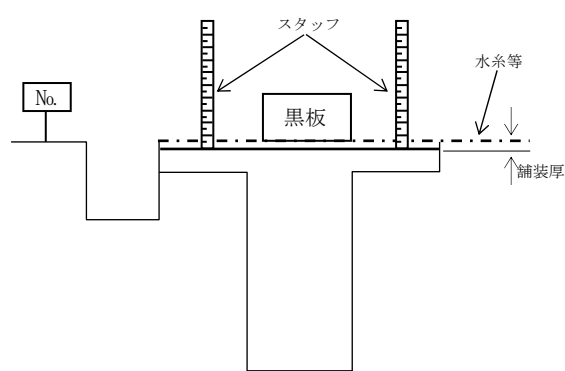


図-14 上層路盤工出来形



各層ともスタッフをあて後方に敷均し転圧状況が写るように撮影する。

図-15 路盤掘削積込工状況・不陸整正工状況



路盤掘削積込工状況は、機械(人力)掘削状況を撮影し、不陸整正工状況は後方に転圧状況が写るように撮影する。

図-16 舗装工，乳剤散布施工状況

各層毎に乳剤散布状況を撮影する。既設舗装面についてもブラシ等で乳剤を塗り付ける作業状況も同時に写す。

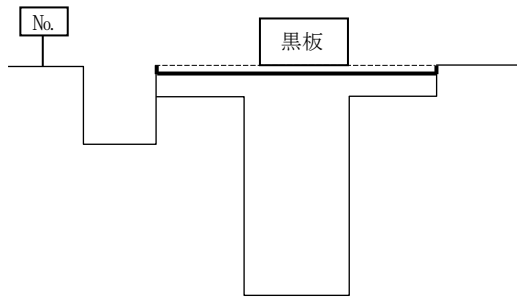


図-17 舗装工状況・出来形

舗装状況は各層ともスタッフをあて後方に作業状況が写るように撮影する。

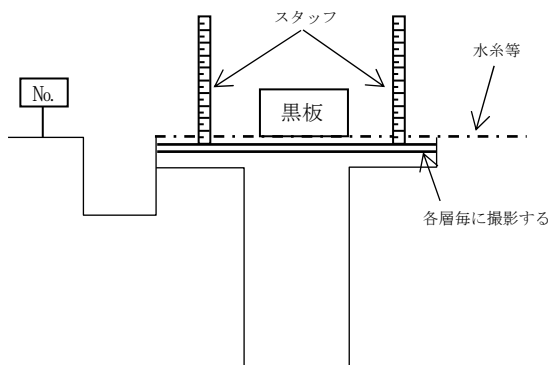


図-18 側溝等の基準がない場合の出来形

側溝等の基準が無い場合で型枠等を使用する場合はW寸法の出来形を撮影する。

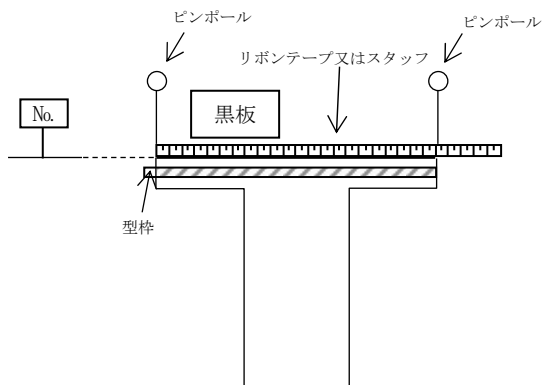


図-19

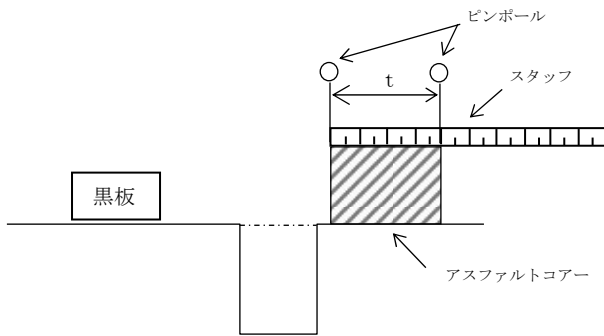


図-20

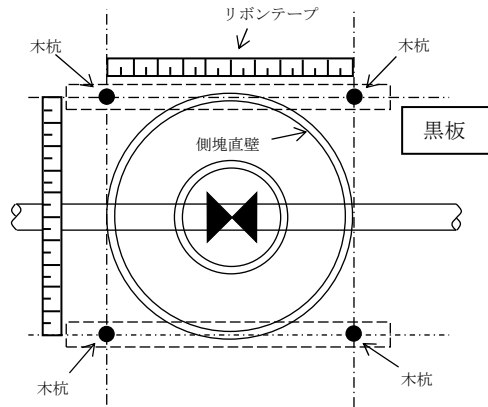
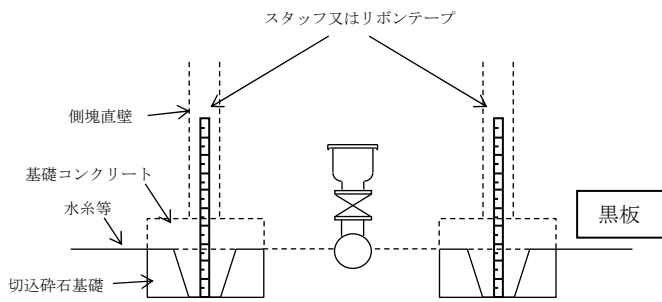


図-21



厚さの測定は転圧後一箇所掘りおこしてスタッフ又はリボンテープ及び水系等で測定し併せて幅、長さもリボンテープで測定する。

図-22

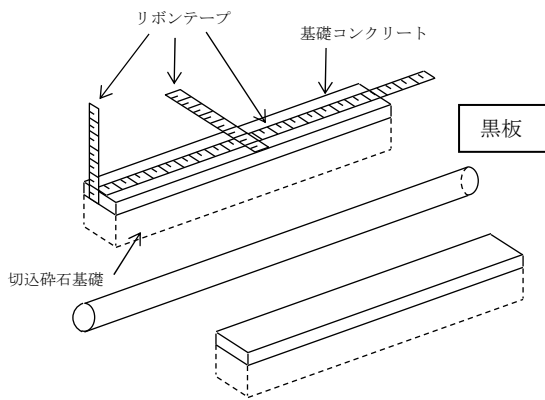


図-23 レジンボックス基礎工

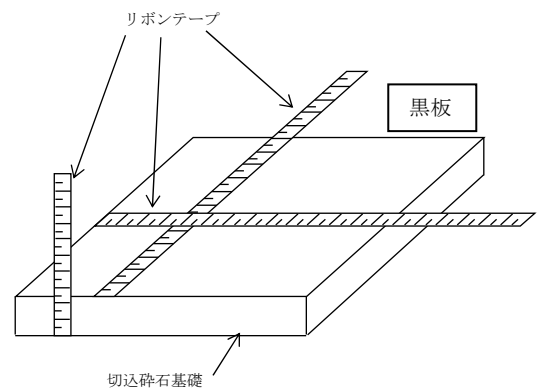


図-24

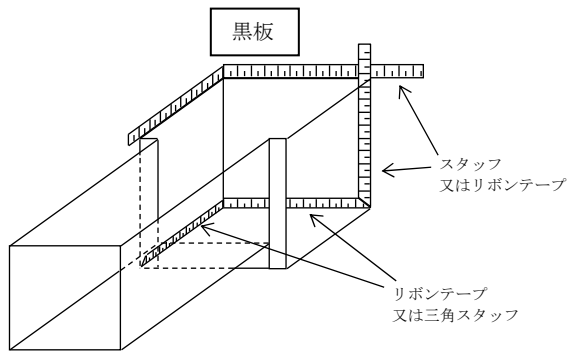
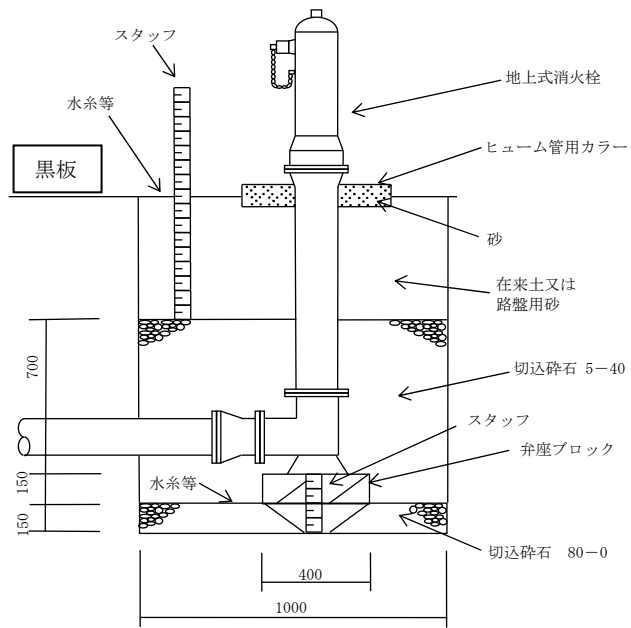
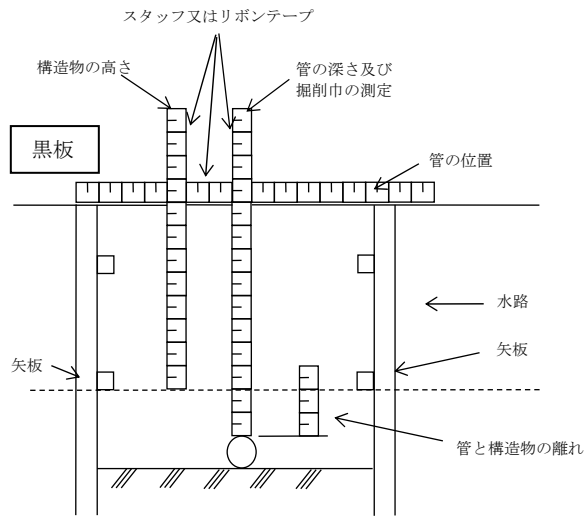


図-25



切込碎石突き固め後、厚さ測定する。

図-26



管及び構造物の測定尺は出来形に使用する
スタッフ、リボンテープ、水系等による。

各々同時に撮影できる場合は同時に写して
よい。

図-27

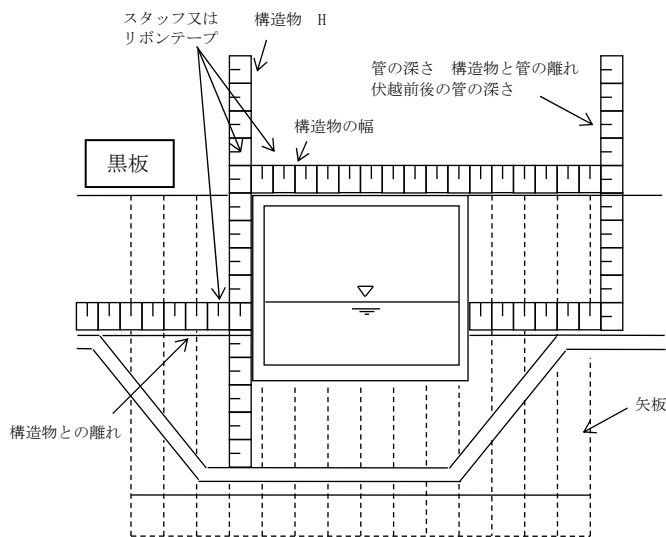


図-28

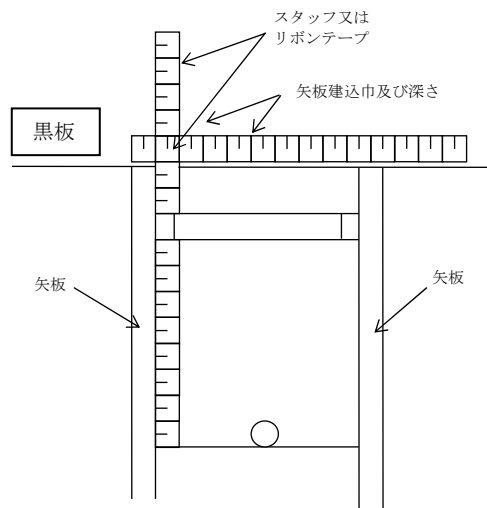
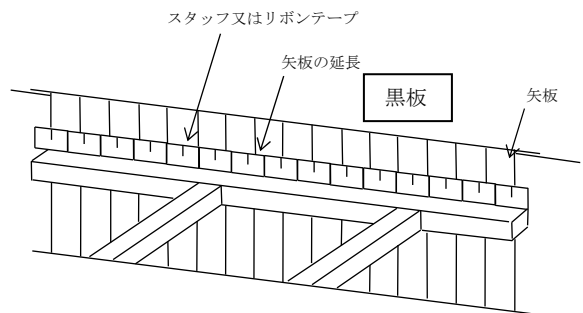


図-29



○ 工事写真台帳整理要領

工事写真の整理については、下記要領に従いアルバム整理する。

アルバムの種類

工 事 写 真 帳	
契約番号	年度 八水契第 号
工事名称	
工事箇所	
工 期 着 手	年 月 日
	竣 工 年 月 日
工事施工者	

1 着手前、完成、全測点

(1) 各測点の着工前、完成が対比できるように測点順序に従って整理する。

<u>No. 0</u> 着工前			<u>No. 0</u> 完成
<u>No. 1</u> "			<u>No. 1</u> "
<u>No. 2</u> "			<u>No. 2</u> "

着手、完成の前頁に全体平面図を適度に縮小し、写真管理した各測点を明示した図面を添付する。

- 2 状況写真 150mに1箇所及び変化点
道路復旧方法の種類により①及び②に従って整理する。

①

No. 0 カッター工			No. 3 カッター工
No. 1 "			No. 4 "
No. 2 "			No. 5 "

②

No. 1 カッター工			// 入方敷均し
// アスファルト とりこわし			// 吊込み据付
// 機械掘削			// 埋戻し

各作業状況が判別できるよう前頁に道路復旧図等添付し作業内容を明示する。

- 3 出来形写真 全測点及び変化点

- (1) 状況写真と同様の整理方法とし、写真整理した出来形の寸法を記入する。

①

No. 0 カッター工 W= W=			No. 3 カッター工 W= W=
No. 1 " W= W=			No. 4 " W= W=
No. 2 " W= W=			No. 5 " W= W=

②

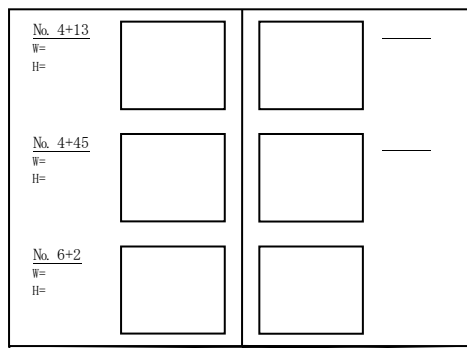
No. 1 カッター工 W= W=			// 入方敷均し W= W=
// アスファルト とりこわし W= W=			// 吊込み据付 W= W=
// 機械掘削 W= W=			// 埋戻し W= W=

各出来形寸法(設計寸法及び実測寸法)が対比できるようにする。ただし、道路復旧図等の各所寸法を記入した図を前頁に添付した場合は、実測寸法W=〇〇.〇m(赤色)を表示し、設計寸法(黒色)は省略してもよい。

(2) 伏越等

状況写真、出来形管理写真とも②の整理方法に従い全箇所とする。

管布設出来形写真



測点以外の地点で設計値通り布設できない箇所及び異形管使用箇所

4 弁 栓 類

(1) 仕切弁 作業工程に各口径別に各1箇所

着手前、完成、作業の順序に従って状況写真を整理する。

ただし、仕切弁設置を目的とした工事以外は土工を省略してもよい。

(2) 空気弁、バタフライ弁 全箇所

着手前、完成、作業の順序に従って管布設と同じ要領で整理する。

ただし、これらの設置を目的とした工事以外は土工を省略してもよい。

(3) 地上式消火栓 全箇所

着手前、完成、作業の順序に従って管布設と同じ要領で整理する。

(4) 地下式消火栓

着手前、完成、作業の順序に従って管布設と同じ要領で整理する。

ただし、地下式消火栓設置を目的とした工事以外は土工を省略してもよい。

5 仮 設 工

(1) 土留工

イ 当初から特記仕様書に計上されている場合において全面矢板の場合は150mに1箇所とし、部分矢板は適宜整理することとし、どちらの場合も場所、全延長が分かるようにすること。

ロ 伏越等による土留は全部

ハ 施工条件の変更に伴う場合は、その場所、延長が明確になるよう整理する。

ニ 接合部に施す矢板は適宜とし、その箇所数が明確になるよう整理する。

(2) 水替工

水替の状況は水替した延長が分かるように整理する。

6 品質管理 状況、出来形とも各種別毎に整理する。

7 仮設備 全部

8 材料検査 全部

9 安全管理 全部

10 給水管切替工

(1) 給水管切替平面図を写真説明用として添付する。

(2) 切替件数により別冊として整理した方が適当な場合は別冊に綴ること。

(3) 分岐サドル取付・水圧試験状況、布設状況、既設管との接続状況については全部、土工は道路復旧種別ごとに1箇所、道路復旧が同じ場合は5箇所に1箇所の割で整理する。

○ 写真帳の提出

1 アルバムは、工事完成時に1部を監督職員へ提出しなければならない。

ただし、関係機関に提出する写真については、監督職員の指示によらなければならない。